



【初詣】

グループホーム佐和の杜 計画作成担当者 民和之

あけましておめでとうございます。

今年も1月3日、4日、5日と3日間にわたって、簗田町の八幡神社に初詣に出かけました。お賽銭を片手に握りしめ、「良い一年になりますように…」と個々に思い思いに祈願をされていたりしていました。

神社の敷地内は足元が悪い所もありましたが、地元の方がお手伝いしてくださり、安全にお参りすることができました。ありがとうございました。

本年も皆さんが健康でお過ごしいただけますように。



【佐和の杜 大規模改修】

グループホーム佐和の杜も今年で24周年を迎えます。

昨年12月より大規模改修を行っております。

内容は主に、外装と内装です。内装については、台所と浴室、フロア内を行っており、ご利用者がより生活しやすい環境になっていく予定です。

しばらく窮屈な思い、ご不便な思いをおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

2月いっぱいには完了する予定です。新しくなった佐和の杜をぜひ見学にお越しください。



【餅つき会】

実行委員長 特養介護職員 榎本 拓也

令和7年も残り約2週間となった12月20日。ちば美香苑では、この時期には欠かせない恒例行事である餅つき会が開かれました。当日は不運にも雨が降ってしまいましたが、開催を楽しみにされていたご利用の皆様のためならば、雨にも風にも負けない意思で実施いたしました。

午前中より会場設営、ちゃんこ作りなど、開会に向けて準備が整ったところで、餅つき会が始まりました。地域の方も見守る中、新年も良い年になりますようにと思いを込めながら「よいしょー！よいしょー！」と大きな声を出して、新任の小笠原副施設長をはじめに、職員とご利用者が順番にお餅つきしました。

臼の中のお餅がつきあがる頃、今年度も皆さんの期待に添えて(?)、正義のヒーローもちもちマン（鏡餅に扮した職員）が鍛えられた体を披露。雨がそば降って肌寒い会場を、焼き立ての餅の如く熱々の一身で駆け回り、さらに盛り上がりました。

屋内ではついたお餅で餅花づくりを行いました。餅つき会が始まる数日前、ご利用者のお孫様より「祖母と一緒に餅花を作りたいです」と心温かいご希望に添え、小さなお子様とご一緒に楽しく仲良く餅花体験に参加され、思い出の1ページになったことと思います。

そして、お待ちかねのおやつ時間。きなこ、あんこ、からみのお餅が用意され、一口ずつゆっくり噛み締めながら、つきたてのお餅を堪能されました。諸事情でお餅を食べられない方にも、代替品としてぼたもちが用意され、「美味しいよ」「おかわりー！」と歓声が上がりました。

日頃から皆様の温かいご支援とご協力により、餅つき会をはじめに各行事が実施できることを感謝申し上げます。これからも「選ばれる施設」となるよう、丁寧な対応を心掛け、職員一同、一層気を引き締めたいと思います。



【クリスマス会】

デイサービス 相談員兼介護職員 白井 梨恵

令和7年12月25日、デイサービスセンターにてクリスマス会を行いました。

当日は、クリスマスツリーを模したゲーム、一人ひとり自身で作るパフェ作り、職員手作りのクリスマスカードのプレゼントなど、笑顔があふれる催しが盛りだくさんの一日となりました。

「ケーキは出るかな?」「プレゼントはあるのかなあ」と、クリスマスが近づくにつれて心待ちにされている様子も多く見られ、当日は会場全体が温かな雰囲気に包まれていました。クリスマスカードの写真をご覧になりながら、「こんなことがあったね」と思い出話に花を咲かせる場面もありました。パフェ作りでは、スポンジケーキの上にクリームやイチゴをのせ、どこに飾ろうかと試行錯誤しながら、思い思いにかわいくデコレーション。完成したパフェは「おいしいね」と笑顔で召し上がっていただきました。

皆様にとって、心に残る楽しいクリスマスのひとときとなりました。



【新年会】

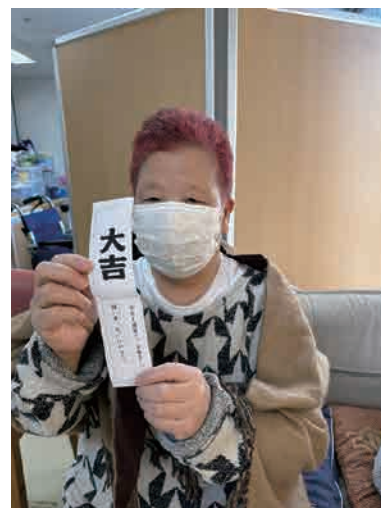
デイサービス 相談員兼介護職員 白井 梨恵

1月6日、新年の始まりを祝う新年会を開催しました。

デイフロアには、立派な「ちば美香苑神社」が登場し、皆様お一人おひとり心を込めてお参りをされました。絵馬にはそれぞれの想いを綴っていただき、新しい一年への願いがたくさん並びました。お参りされた後はおみくじも引きました。「大吉だったよ」「こんなことが書いてあったよ」と、あちこちで会話が弾み、自然と笑顔が広がるひとときとなりました。

おやつには、新年の始まりにふさわしい、絵馬の形をしたかわいらしいカステラをご用意。新年会ということで、甘酒で乾杯も行いました。カステラは皆様ぺろりと完食され、「おかわりはないの?」というお声も聞かれるほど。

終始、和やかで温かい雰囲気に包まれた新年会となりました。



【コラム】

大人になって見つけた『学び』の魔法

広報担当 宮城 孝允

「なんで勉強しなきゃいけないの？」—学生時代、誰もが一度は抱いたことのある疑問ではないでしょうか。勉強する理由が見つからず、机に向かう手が止まってしまった経験は、私にもあります。しかし、大人になった今、ある考え方に会ってから「もっと早く知りたかった！」と痛感していることがあります。それは、「勉強して教養を身につけると、人生はとっても安上がりになる」ということです。

1. 「教養」は、世界を味わうスパイス

ここでいう教養とは、単なる暗記ではなく、「物事を深く味わう力」のことです。例えば、一枚の絵画を眺めるとき。美術史や画家の人生を知っていれば、その一本の筆跡から当時の時代背景や、画家の切ない思いまで読み取ることができます。図書館の本やインターネットを使えば、こうした知識は無料で手に入ります。

知識という「レンズ」を通せば、道端に咲く花も、近所の古い建物も、最高のエンターテインメントに変わります。お金をかけなくても、世界を深く楽しむことができるのです。

2. 知識は、誰にも奪われない財産

一方で、もし教養というレンズがなければ、娯楽は「分かりやすい刺激」に偏ってしまうかもしれません。ギャンブルや過度な買い物など、強い刺激には往々にして多くのお金がかかります。

「知識は荷物にならない」という言葉があります。一度身につけた教養は、一生あなたのそばにあり、誰にも奪われることはありません。そして、それはあなたの人生の選択肢を無限に広げてくれる魔法でもあります。

3. 人生の先輩に学びながら、豊かな景色を分かち合いたい

私自身も今、さらなるスキルアップを目指して資格取得に挑戦しています。いくつになっても、新しいことを知る喜びは格別です。ご利用者が歩んできた豊かな人生の知恵を学びながら、私も皆さまと共に、世界をもっと深く楽しめる「教養」を蓄えていきたいと思っています。今日も、新しい発見がありますように。

【新年の挨拶】

特別養護老人ホーム

副施設長 小笠原 一志

あけましておめでとうございます。令和8年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年中は、ちば美香苑の運営にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。私がちば美香苑に異動してまいりましたのは令和7年4月です。この一年、春夏秋冬を通して、自然豊かな環境の素晴らしさを実感してまいりました。新緑や山桜、チューリップをはじめ、ミョウガ、たまねぎ、落花生、サツマイモ、いちご、そして手作りみそなど、季節の恵みを身近に感じられることも、ちば美香苑の大きな魅力の一つです。この環境の中で、お一人おひとりが四季の移ろいを楽しみながら、元気に、その方らしい生活を送っていただけるよう、職員一同支援に努めてまいります。また、4月の開苑記念、9月の敬老会、10月のオータムフェスタ、12月の餅つき会をはじめ、特養・ショートステイ・デイサービス・グループホームそれぞれで季節の行事を重ね、多くの笑顔をいただきました。ご家族・地域の皆様の温かなお力添えに、あらためて感謝申し上げます。本年も「ちば美香苑で過ごせてよかった」と感じていただける施設を目指し、努めてまいります。変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

